

事業所名

さやかこども支援センター（あみい）

支援プログラム（参考様式）

作成日

7年

2月

3日

法人（事業所）理念	誰もが地域の中で その人らしく 幸せを感じながら 機嫌よく暮らせる 共生社会を目指します				
支援方針	地域とつながり、楽しみながらのびのび成長していけるよう支援していきます				
営業時間	8時	30分から	16時	30分まで	送迎実施の有無 あり なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	早寝早起き、朝ごはん、排便等の規則正しい生活や整った生活リズムは午前の活動のパフォーマンスを上げる為に必要です。基本的な生活習慣を整えなければ療育は積みあがらないと保護者に伝え協力をお願いしています。睡眠時間が短い、熟睡出来ない等、睡眠が整わない利用児には受診を勧める場合もあります。手の洗い方は手洗い表を見ながら、又は職員が言葉で伝えながら見本を示して丁寧に洗えるよう指導を行っています。衣服の着脱は利用児に気温を伝えて季節に応じた適切な服装を教えています。排泄では男児は立ち便器を使用する場合、お尻は出さないよう練習をしています。送迎時や入室後に消毒、検温等の感染予防を行っています。			
	運動・感覚	姿勢の発達を促す為、鉄棒（ぶたの丸焼き）、平均台、丸太ブランコ、ハンモック等に加え、身体に合った椅子を使用しています。眼球運動の発達を促す遊びでは、ビー玉転がし、クルクルチャイム、風船突き等を行います。身体図式の発達を促す遊びではトンネルくぐり、タオルくぐり等を行います。巧緻動作の発達を促す遊びでは粘土遊び、洗濯ばさみ、ボタン掛け等を行います。また、トランポリン遊びでは背筋や腹筋を使ってバランス感覚や体幹を養い、脳の覚醒を高めて集中しやすい状態をつくり、その後の課題遊びに繋げています。			
	認知・行動	新版K式発達検査を受けて発達の特徴を把握し、NCチェックで発達状況を確認しながら個別課題を組み立てています。グループ課題は認知、言語、運動の3領域に分けて月ごとに変えています。写真、絵カード等を使って視覚支援を行い、理解しやすい環境づくりをしています。気が散りやすい児には、つい立やカーテンで仕切り落ち着く環境を整えています。自分の思い通りにならないと怒ったり泣いたりする児には、様子を見ながらやるべき事を伝えています。			
	言語 コミュニケーション	規則正しい生活で体と感覚をはぐくむ事で、コミュニケーションの土台をつくります。安心できる環境の中で、コミュニケーションへの興味が生まれ簡単な言葉から教えていきます。サインやジェスチャーを使い言葉の理解を促します。心のコントロールが出来るように自分の気持ちを言語化する練習をしています。			
	人間関係 社会性	グループ指導の中で自分の順番を待つ事、また待つ場所には印を付け理解しやすい環境を作っています。待つ事で、他児の行っている行為をモデルとしてみて、他児に関心を持ち、一緒に行動するなど社会性や適応力を学習できるように配慮します。強い言葉はトラブルの原因になるので優しい言葉を使うよう伝え、大人に対しては「です、ます」等の丁寧語で話すよう促しています。			
家族支援	3カ月に一度の参観、また月一度の土曜営業日には希望者や必要と思われる保護者へ相談援助を行います。受診を勧める場合もあります。受診が決まった際には必要に応じて医療機関へ情報提供を行います。保護者には褒め方や良い対応のコツを伝え、家庭での関わり方のアドバイスを、兄弟においても希望があれば相談援助を行います。 必要に応じ、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師等による個別療育を行います。	移行支援	年中、年長児の保護者に就学セミナーの参加を呼びかけます。また、年長児の保護者には教育相談を勧め、教育委員会へ担当保健師と共に同行します。また学校見学、個別支援会議等にも同行をし保護者の希望があれば就学先へ情報提供も行います。		
地域支援・地域連携	利用児が通園する園の職員、保健師、教育委員会と連携して支援していきます。必要に応じ各関係者と連絡調整や個別支援会議を行います。	職員の質の向上	法人内の研修（月例研修、虐待防止・権利擁護研修）や外部の研修に積極的に参加します。		
主な行事等	毎月行う避難訓練、こども支援センター納涼祭、また法人行事として、保護者説明会、さやかのつどいを行っています。				